

5. eラーニング教材

5.1. 概要

eラーニング教材コンテンツ「EdTech 基礎Ⅰ」は、科目「EdTech 基礎Ⅰ」の授業の予習・復習を支援することを目的とする独習教材である。従って、その内容はテキスト『EdTech 基礎Ⅰ』に準拠し、各テーマの重要なポイントに関する説明と小テストで構成されている。

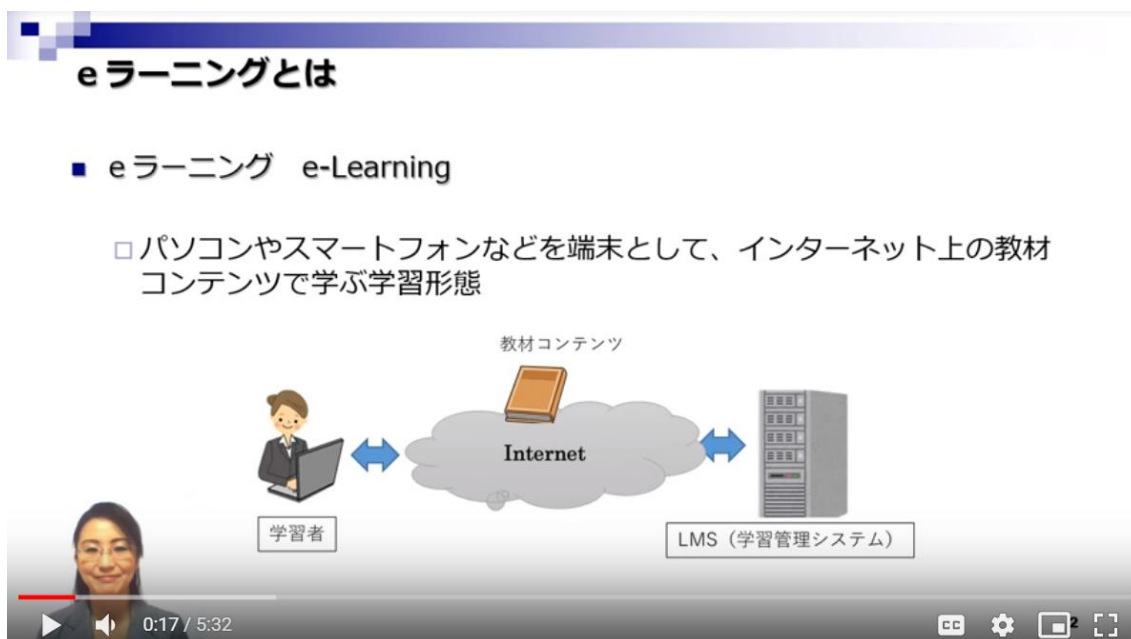
5.2. 仕様

教材コンテンツの仕様は、板書に相当する PowerPoint スライドを背景にして、講師が講義を行う「講義動画型」のオンデマンド教材である。マイクロラーニングの手法を取り入れ、1つのテーマの講義時間数は10分以内に収まるように内容は組み立てられている。

図表 5-1 教材コンテンツの仕様

タイプ	講義動画型・ドリル型
手法	マイクロラーニング
標準学習時間	1 テーマ 10 分程度 総学習時間数 1.5～2.0 時間
利用デバイス	スマートフォン、タブレット、パソコン

図表 5-2 教材コンテンツの画面例



eラーニングのメリットとデメリット

■ 学習者からみたメリットとデメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none">□ 時間や場所に制約されずに学習できる。(いつでもどこでも学習)□ 自分の理解やペースで自由に学習できる。(自由度の高い学習)□ テスト結果の即時フィードバックや進捗状況を確認できる。□ 講師の教授スキルや相性等、人的要素の影響がない。(均質な教育)	<ul style="list-style-type: none">■ 学習意欲の喚起・維持が学習者に委ねられるため、いつでもどこでも「学習しない」状況になりがち。■ 学習内容でわからない点等についての質問で即時に回答が得られない場合もある(eラーニングにより異なる)。■ 実技・体験型学習に対応できない場合もある(eラーニングにより異なる)。

5.3. 内容

内容は、テキスト『EdTech 基礎Ⅰ』で取り上げられているうち、特に重要性が高く予習・復習が必要と判断された 10 テーマの講義である。

以下に、eラーニング教材コンテンツの内容構成を示す。

図表 5-3 eラーニング教材コンテンツ「EdTech 基礎Ⅰ」の内容構成

1. eラーニング
 - eラーニングとは
 - 学習者からみたeラーニングのメリットとデメリット
 - 教育提供者からみたeラーニングのメリットとデメリット
 - eラーニングによる学びの変化
 - eラーニング発展の経緯
2. 教材コンテンツ
 - 教材コンテンツの種類・特徴
 - 資料データ型
 - テキスト中心型
 - 音声 & アニメーション型
 - 講義動画型
 - 講義動画 & ソーシャルメディア連動型

- シミュレーション型
- ドリル型
- 仮想現実型
- 3. LMS（学習管理システム）
 - LMSの主な機能
 - LMSの導入・利用形態
 - 講義動画の配信方式
- 4. 電子書籍
 - 急成長の電子書籍
 - 電子書籍を買う・読む
 - 電子書籍の特徴
- 5. ブレンディッドラーニング
 - ブレンディッドラーニングとは
 - ブレンディッドラーニングの代表的なパターン
 - 反転授業
- 6. ソーシャルラーニング
 - ソーシャルラーニングとは
 - ソーシャルラーニングの学び
 - 事例
- 7. マイクロラーニング
 - マイクロラーニングとは
 - なぜ、マイクロラーニングなのか
 - 「短時間積み上げ学習」の高い学習効果
 - マイクロラーニングのメリット
 - マイクロラーニングの開発に向けて
- 8. アダプティブラーニング
 - アダプティブラーニングとは
 - アダプティブラーニングを実現するテクノロジー
 - 事例
- 9. MOOC/MOOCs
 - MOOC/MOOCsとは
 - MOOCプラットフォーム
 - 日本のMOOC
- 10. eポートフォリオ
 - ポートフォリオとは
 - eポートフォリオとは

- ポートフォリオの作成
- 事例

eラーニング教材コンテンツでを使用した PowerPoint スライドは、本報告書の巻末資料として掲載している。

5.4. 学習画面

eラーニング教材コンテンツ「EdTech 基礎Ⅰ」がセットアップされている eラーニングサイトにアクセスすると、以下に示す「サインイン画面」が表示される。ここで、所定のサインIDとパスワードを投入すると、次のメインメニュー画面へと遷移する。

図表 5-4 eラーニングサイト・サインイン画面とメインメニュー画面



メインメニュー画面で学びたいテーマを選択すると、次に示す講義動画再生画面になる。画面の上部が講義動画の再生エリアで、再生ボタン▶をタップすると講義がスタートし、任意の場面で停止、巻き戻し、早送りの操作ができる。

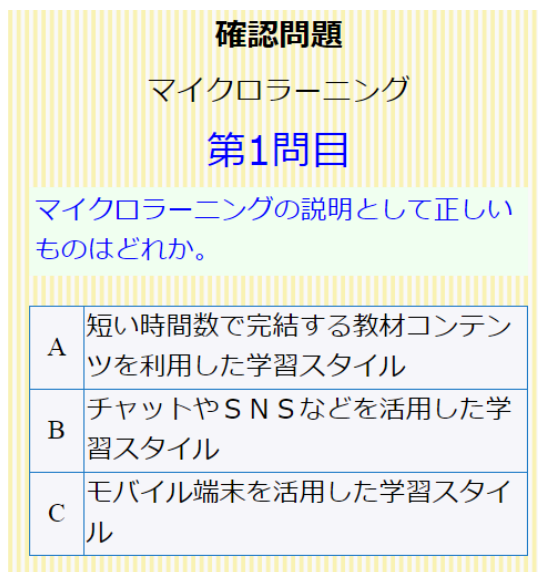
図表 5-5 講義動画再生画面



講師の背景にある PowerPoint スライド（講義資料）のデータ（PDF 形式）をこの画面からダウンロードすることもできる。手元の講義資料を見ながら講義を聞くという学習スタイルも可能としている。

また、この画面で「確認問題」をタップすると、確認問題に取り組むこともできる。

図表 5-6 確認問題の画面



確認問題は多肢選択型の問題で、回答の正誤判定と解説を提示する機能を有している。

図表 5-7 確認問題の正誤判定と解説の提示画面